

『危険から子どもを守る』地域の輪を！

札幌市白石区の小学3年の女子児童が行方不明になっていた事件、2月2日夜に女兒は同区内の容疑者（26歳）宅で発見、無事保護されました。同容疑者は1月27日午後、女兒の自宅前の駐車場付近で、買い物から帰宅した女兒に「ちょっと来て」と声を掛け、連れ去り、女兒は家に入った直後に後ろ手にされて粘着テープでまかれ、口と目をふさがれたと伝えられています。（平成26年2月3日の新聞報道より）

子どもが犯罪の被害者にならないよう、保護者が防犯の知識を持って「子どもへの防犯教育」を行うこと。また、地域ぐるみの見守りが必要です。

●子どもが一人になる状況をつくらない。

塾通いなどではできるだけ送り迎えを。ちょっとした買い物も親の用事に合わせて一緒に出かける。

●子どもに、自分のいのちを守る知識と判断力を教える。

知らない人を警戒する。「お母さんの知り合い」などと声掛けされてもすぐ信用しない。

●叫ぶ、逃げるがとっさにできる子どもに。

大声で叫ぶ、荷物を捨てて逃げるなど、万一のときの対応を訓練する。

防犯ブザーを実際に使う練習をする。電池切れや破損がないか確認する。

●身近にある危険を具体的に教える。

人の出入りの少ない駐車場や公衆トイレ、空き家や廃墟、車で歩行者に接近しやすい道路、「こんなところはこういった危険があるよ」と具体的に事例を挙げて普段から注意させる。

☆子どもを守る地域の見守りの力

・人目につかない場所で遊んでいると「危険だよ」、遅くまで遊ぶ子には「早く帰りなさい」と注意のご協力をお願いします。

・公園や通学路に見かけない車や不審な者はいないか目配りをお願いします。

・日中、家にいるシニアの方や主婦の方は、庭など外回りの手入れや散歩、お買い物などの時間を、子どもたちの登下校時間に合わせると、町中が子どもの見守りにつながります。



ご協力お願いします。

清水町生活安全推進委員会